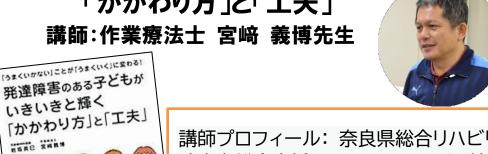
中河内プロック支援通信

R6年I月5日、八尾支援学校を会場に、「R5年度 支援教育地域支援整備事業 第2回中河内ブロック研修:講演」が行われました。

「うまくいかないこと」が「うまくいく」に変わる!子どもに自信をもたせ、やる気を引き出す

「かかわり方」と「工夫」





講師プロフィール: 奈良県総合リハビリテーションセンター・奈良県障害者総合支援センターにて子ども地域支援事業立ち上げにかかわる。ハートランドしぎさん子どもと大人の発達センター室長。2020年4月よりフリーの作業療法士として学校園への訪問相談、乳幼児健診で保護者向け教室など。※左は御高著になります。

中河内ブロック以外の学校園からの参加を含む | 80名もの方が宮崎先生の貴重なお話に深く聴き入り、頷いておられました。



↑校内外から集まったたくさんの先生方。

宮﨑先生にご持参頂いた教材、関連書物の展示。

熱心に手に取り、写真に収める先生方。→

- ↓参加者のアンケートより(一部)
- ・具体的な話をたくさん紹介して頂き、 子どもたちを重ねながら聞くことができ

ました。まず気持ちを認めるところからスタートし、よりよい方法を教えていくことが大切だと感じました。

・一人ひとりの子どもに寄り添って、言葉がけをしていくことが必要であること を改めて実感しました。「褒める」「できたことを認める」をキーワードに実践して いきたいです。

宮﨑先生のお話を参考に。教室でこんな場面、ありませんか?

A さんが B さんをサッカーに誘っています。B さんは絵を描きたいようで困っています。 担任の先生が B さんの気持ちを代弁すると、A さんが「ジャマすんなよ!」と激怒しました。





A さんの気持ち 「B さんもサッカーがやりたいのに!」 「先生はジャマばっかりする!」 「先生はぼくばかり怒る!」



「もっと相手の気持ちを考えなさい!」 い!」「周りを見なさい!」 「すぐにカッとしないの!

Aさんには「相手の表情が読み取りづらい」「状況の見え方が違う場合がある」といった特性があるかもしれません。Aさんを理解しないまま叱責を重ねれば、不信感は募るばかりでしょう。

まずはAさんについての深い理解を。それからかかわり方を見直し、アプローチします。 SST(ソーシャルスキルトレーニング)の例が紹介されました(SSTは、子どもが自分にとって必要だとわかり、楽しみながら取り組めることが大事とのことです)。





先生を相手に練習。



相手の目と口を見る練習。

「その子の存在をほめる」

△できていないことを指摘する。 「早く教室に戻りなさい」 ○今できていることを褒める。 「もう靴をはきかえたの?すごい!」 行動をほめる存在をほめる

好きだよ(愛) 大丈夫?(心配する) それ何?(気にかける) おもしろそう!(興味を持つ)

他に、宮崎先生のお話では、「手押し相撲をして踏ん張る」「だるまさんが転んだをして止まる」など、行動をコントロールする経験は、感情をコントロールできることに繋がるとのことです。

「毛布にくるまる」「砂遊び」など、気持ちを落ち着かせるてだてを子どもと相談して、たくさん用 意しておくといいこともわかりました。 文責 北野香